



『スパークス 日本株長期投資のすすめ』

スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

第21号(2008年7月25日)

「タイミングは重要か」

いつどのようなタイミングで投資を始めればよいのか、迷われたご経験をお持ちの方がいらっしゃるのではないのでしょうか？今回は、長期投資の観点から、投資を開始する時期と運用実績の関係について、お話ししたいと思います。

結論から申し上げますと、長期投資では投資を始めるタイミングはあまり重要ではありません。バブル絶頂期のような、株価が高値圏にある時に投資を始めたとしても、長期的には株式のリターンは長期国債や短期国債のリターンを上回ったことを、過去のデータが証明しています。

以下のデータは20世紀の米国市場における6回の大きな株式市場のピークから10年間、20年間、30年間にわたり、株式、長期国債、短期国債を保有したときに得られた実質利回りを比較しています。

10年間： 株式 2.26%、長期国債 0.68%、短期国債 ▲0.10%

20年間： 株式 3.90%、長期国債 0.29%、短期国債 ▲0.36%

30年間： 株式 6.10%、長期国債 1.25%、短期国債 0.44%

出所：「Stocks for the Long Run」, ジェレミー・シーゲル著より、スパークス・アセット・マネジメント作成

上記のデータが示している通り、たとえ相場の天井で株式投資を始めたとしても、長期で保有していれば、他の金融資産に比べて高い運用実績を残せたということがお分かりいただけたと思います。

もちろん、タイミングを計って、安く買って高く売ることが確実に繰り返すことができるのであれば、長期投資で得られる運用実績よりも大きな利回りを得ることができるでしょう。しかし、底値で買って高値で売ること続けることは非常に難しいと考えられます。上昇相場では、今売って1年後2年後にもっと株価が上がってしまうと、儲けのチャンスを逃してしまうかもしれないという思いから、なかなか売ることができないかもしれません。そして下げ相場では、今買って1年後2年後にもっと株価が下がってしまったら、大損してしまうのではないかと不安や市場にあふれる悲観論から、なかなか買うことができないかもしれません。こうした投資家心理は投資家自身が自覚している以上に、運用実績に大きな影響を与える可能性があります。

長期投資は、売買のタイミングを気にしないことによって、投資家心理がもたらす思わぬ投資機会の損失を排除できる運用手法であることをご理解いただけましたでしょうか。

(注) 本コラムは、マネックス証券Web-Site「マネックスラウンジ」の「マネックスメール」に掲載されている「スパークス・アセット・マネジメントの『SPARX Way』」をもとにスパークスが作成したものであります。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。